

動画記録：ウクライナ戦争週末アップデート

ウクライナ側による戦争犯罪記録

<https://www.infowars.com/posts/graphic-ukraine-war-weekend-update/>

Kelen McBreen

April 18, 2022

⇒独立ジャーナリスト Patrick Lancaster が、命を賭して、現在進行中の紛争の、逆方向の見方を提供。

独立ジャーナリストのパトリック・ランカスターが、ウクライナ-ロシア紛争の独占的な取材を提供し続けている。

ランカスターは、ドネツク人民共和国とロシア軍の内部に潜り込み、市民からの直接の物語と、驚くべき戦争の現実を暴露するフィルムを、記録し続けている。

このビデオ記録セットは、ランカスターが単独で、初めて、東部マリウポリから報告したものである。

アメリカの退役軍人から、ニュース報告者に転向したこの人物は、金曜日、マリウポリのある女性と対話しながら、市民たちが炸裂弾によって殺されており、その背後には死骸がころがっていることを知った。

この女性は、過去数か月来、インタビューされた何百人の人々と同じく、ランカスターに対して、市民たちを撃ち殺しているのは、ウクライナのアゾフ隊であるのは確かだと言い、「なぜ、我々を保護するように要請されている軍隊が、我々を襲撃するのかわからない」と言った。

撮影された、死んだ人々の一部は、その首や腕に白いバンドを巻いており、これは彼らが、ロシアに忠実であるとか、降伏しようとしたという理由で、ウクライナ軍によって殺されたことを示していた。

ランカスターは土曜日に、いくつかの報告をアップロードしたが、その最初のもは、ウクライナ軍のメンバーが、市民に発砲しているという、市民の証言を編集したものである。

爆弾除けシェルターにいる人々は、彼に、「もしそれがロシア兵だったら、そう言いますよ」、しかし、この地方住民に発砲してきたの「ウクライナ兵だった」と言った。

ある人は、自分の母親と妻を失ったが、それはウクライナのモルタル砲によるものだ、と彼は言った。

脚に散弾銃の破片を撃ち込まれた、ある若い女性は、ウクライナ軍が彼女の地方の家を破壊しただけではない。彼らに食べ物をもってきて、危険地帯から誘導してくれたのは、ロシア兵だったと言った。

爆撃シェルターの人々と共に、ランカスターが話したことだが、ロシア軍が到着したとき、彼らは、より安全な場所への移動を希望する人々に、そのように計らった。そして市民の疎開が行われるとき、子どもたちが優先された。

日曜日に、ランカスターは、マリウポリのイリチャ鉄鋼工場の外部を撮影したが、そこには大規模な戦闘の跡が残され、建物、道路、自動車などが破壊されている。

驚くべきビデオが、月曜日にアップロードされ、この退役米軍人は、DPR-ロシアに支配されたマリウポリの領域の、なまの戦闘シーンの報告を行っている。

撮影中、市民のある集団が、ランカスターと彼の同行者に、ある年配の婦人が、ウクライナ軍のモルタル砲に砲撃されているビルに、閉じ込められていると知らせた。

この女性は、ある兵士によれば背骨を損傷しているので、彼らは彼女を安全な場所へ移動させることが、できなかったと言った。

ランカスターからの最新のアップロードは、月曜日、マリウポリ、イリチャの「死の行軍」のフィルムが届いたときだった。

写っている光景は、全世界の主流メディアが、ロシアが戦争犯罪を行っていると言っているために利用した、あのブチャの大虐殺の光景とよく似ている。

ある男が、何十人もの彼の死んだ仲間の間を、歩いて通り抜けながら、ウクライナ大統領ゼレンスキーと、「ジェノサイド」を犯しているウクライナ軍の、「テロリスト」アゾフ部隊に向って、憤懣をぶつけながら叫んでいる。

確かに、流血の紛争には2つの側が存在する。しかしメディアの大多数は、ウクライナ側の戦争犯罪を示す証拠の、膨大な量を見逃している。

[訳者 Greatchain 注]

これは貴重な、従軍ジャーナリストによる記録だが、こうしたものはこれだけではない。ウクライナでは、アメリカのバイデン政権の周辺と同じように、子ども売買が横行しているという、やはりジャーナリストによる証言がなされている。

<https://www.infowars.com/posts/back-from-battling-human-trafficking-in-ukraine-jason-jones-returns-to-infowars-in-powerful-new-interview/>

主流メディアやそれと同一の政府が、「ロシアが悪い、ロシアを滅ぼせ」を繰り返すのはいいとしても、では、なぜ、グローバリストと一緒に、「神を滅ぼせ、世界を滅ぼせ」と言わないのか？ このニューヨーク・タイムズの提唱は、間違っているのか？ 正しいことか？ もし正しいのなら、なぜ、そうとはっきり言わないのか？ 大衆をごまかすのは、もういい加減にやめよ。なぜ人間の、(特に75歳以上の人間の——これは知っているだろう) 生きる資格を、はっきり否定しないのか？